



## 入学を祝して

歯学部長 前田 健康

平成24年度新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。歯学科40名、歯学科3年次編入生5名、口腔生命福祉学科24名、口腔生命福祉学科3年時編入生3名の新入生を迎え入れることができましたことは、私ども新潟大学歯学部教員にとりまして、この上もなく喜ばしいことであり、またこの大学受験を支えられてきた保護者、ご家族の皆様喜びもひとしおと拝察いたします。これから、日々進歩する歯科医学・医療、口腔保健医療・福祉学を学び、学生諸君と教職員とともに新潟大学歯学部の新しい歴史を築いていきましょう。

諸君が選んだ全国歯学部の共通の使命は専門職業人の育成です。新潟大学歯学部ではさまざまな工夫を凝らしたカリキュラムが編成されています。私が新入生の皆さんに強調したいことは、新潟大学歯学部では「学生自身が自ら学ぶ」ということを教育の柱としているということです。君たちが大学生活で学ぶ講義、実習の内容は社会に出てからのスタートラインに立つための必要最小限の内容でしかありません。諸君が選んだ職業で成功を修めるに自ら学んでいくという態度の涵養が重要です。小・中・高校では教師から与えられた教材をひたすら暗記・学習し、試験に臨むという受動的な学習形態でした。この学習形態は赤ちゃんがお母さんから食べ物をもろう、いわゆる spoon feeding でした。また、この暗記中心の学習の欠点は何でしょうか？ そうです、このような知識は試験が終わると忘却の彼方へ旅立ってしまうのです。科学、医療の急速な進歩により教育内容は毎日増加しています。すべてを暗記できるでしょうか？ 答えは否です。

医療を目指す諸君には、問題を発見し、自ら学習し、問題を解決していくという学習形態、問題

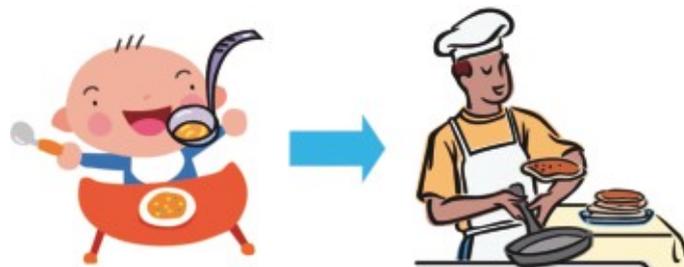
発見・解決型学習が求められます。氾濫する情報の中で、必要なものを選択し、結論を導き出すという訓練が必要なのです。これは検査をして、診断し、治療するという医療行為の一連の流れに過ぎません。さあ、大学に入学したのですから、これからは諸君自ら食材を見つけ、調理していく self-cooking スタイルの学習形態に転換していきましょう。新潟大学歯学部では早くから Problem-based learning (PBL) という学習方法を導入しています。この PBL では教員は学習者の補助者にすぎず、学習の主体は学生であるという概念で、学習が進みます。この教育手法の主眼が「学生自身が自ら学ぶ」ということにあるのはいうまでもありません。大学教育の主役は、教員ではなくて、君たち、学生諸君です。我々歯学部の教員は「The goal of education is better conceived as helping students develop the intellectual tools and learning strategies needed to acquire the knowledge that allows people to think productively. (教育のゴールは生産性を考えさせるための知識を得るのに必要な知的手段と学習方略を学生が開発できるように手助けすることである)」という認識の元で、学生教育にあたっています。なんでもかんでも教えるのが良い教育ではありません。必要最低限の知識の元で学生の知的好奇心を刺激するのが良い教師なのです。この教育の考え方は諸君にとってパラダイムシフトかもしれませんが。

私ども教員が提供する教育カリキュラムは知識の修得だけに焦点をあてているのでは決してありません。歯学教育は認知領域(知識)、精神運動領域(技能)、情意領域(態度)の3つの領域から構成されています。このため、諸君にはこの三者を

密接に連携させた教育カリキュラムが提供されます。このことは知識に裏付けられた技能、態度を卒業までに身につけることにほかなりません。大学教育には国民の多額の税金が投入されており、諸君は国民の税金により高度な教育を享受していくことになります。諸君はこのことを常に念頭におき、国民の期待にそえるべく、努力し続けていただきたいと思います。

私が訪れた国の一つにイタリアがあります。イタリア人は陽気なラテン民族の気質を持ち、その人生観を表す言葉として、「Amore（愛して）、

Mangiare（食べて）、Cantare（歌って）」があります。20代前後のこの時期、学生の大義名分である勉強(Studiare)に加え、この3つのキーワードをいつも頭の隅に置きながら（4つ合わせてMACS）、クラブ活動、ボランティア活動などさまざまな社会経験をし、歯学部以外にも多くの友人を作り、歯科医療人である前に、教養のある社会人となるよう人間性を磨いてください。そして、社会の期待に応える医療人を目指し、これから充実した学生生活を過ごされることを祈念し、入学のお祝いの言葉と致します。





## 入学を祝して

医歯学総合病院総括副病院長 興地隆史  
(歯科担当)

全国各地から難関を突破して新潟大学歯学部の一員となられた歯学科・口腔生命福祉学科の新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。はじめに立派な歯科医師、歯科衛生士あるいは社会福祉士を目指して勉学に励んで下さいと申し上げるべきことはもちろんですが、勉学オンリーの学生生活をお勧めできないことも言うまでもありません。むしろ、勉学には多少なりとも余力を残して取り組んで頂いたうえで、部活、サークル、ボランティアといった、学生時代ならではの活動にも参加することが、皆さんが幅広い人間的魅力を身につける上で有意義と言えるでしょう。そして何よりも、気の合う仲間を増やして頂きたいと思います。大学時代の友人、とりわけ苦楽を共にした同級生は、長い人生の中で最も頼りとなる存在であると言っても過言ではありません。かけがえのない友人と切磋琢磨しながら、楽しく充実した毎日を過ごして下さい。

さて、新潟大学医歯学総合病院歯科系診療部門は、前身の新潟大学歯学部附属病院として開院以来、環日本海地域における歯科医療の拠点として高度かつ専門的な医療の提供に努めてまいりました。また、教育機関として多くの優れた医療者を輩出してきたことも、私たちの誇りとするところです。皆さんには、診療参加型の臨床実習やPBL (problem-based learning) をはじめ、自ら学ぶ姿勢の育成を重視した定評あるカリキュラムが用意されていますが、その中で病院での実習は、節目や締めくくりに位置する非常に重要なものと

なっています。皆さんもすでに早期臨床実習を履修し、歯科医療従事者としての自らの将来像が多少なりとも具体的となったのではないのでしょうか。ここで考え感じたことを忘れることなく、優れたプロフェッショナルを目指して邁進していただければと思います。

歯学部は言うまでもなく「免許学部」であり、皆さんには将来に直結したルールが敷かれた形となっています。ところが、生涯にわたる歯科医療との関わりの中で、学生時代はその始発駅から次の停車駅までの僅かな時間であるといっても過言ではありません。歯科医学は日進月歩であり、私ども歯科医療従事者が学ぶべき事柄は今や極めて膨大であるとともに、常に自分の知識をアップデートすることが求められます。また、狭い口腔内で精度の高い歯科治療を実現させるための技術の習得、さらには患者様や周囲の医療スタッフとのコミュニケーション力など、皆さんが身につけるべき事柄は多岐に渡りますし、一朝一夕には習得しがたいものばかりとも言えます。本院では、皆さんが積極的に臨床現場に参加し、医療の実際を肌で感じる事が可能な環境を提供できるよう、多くのスタッフが努力を重ねています。将来の歯科医療の担い手である皆さんが、吸収力の豊富な今、本院での充実した実習カリキュラムを通じて、幅広い知識や専門的な技術はもちろんのこと、医療のプロフェッショナルとして必要な態度や心構えについても十分に培って頂けることを期待しています。